

お茶の水女子大学附属高等学校

表計算ソフトよりも直感的に操作できるのが魅力

生徒一人ひとりの成績や所見の管理に、お茶の水女子大附属高等学校ではFileMaker Proを活用している。多くのデータを扱う上、決められたレイアウトで印刷するためには、FileMakerがうってつけなのだ。さらに、使いやすさも魅力だという。



◀お茶の水女子大学附属高等学校

国立の高等学校で唯一の女子高校。120年を超える伝統の上に築かれた知的資源を継承しつつ、現代を見つめ、発揮できる女性の育成を目指す。全校生徒360名という小規模校の特性を生かした教育を行っている

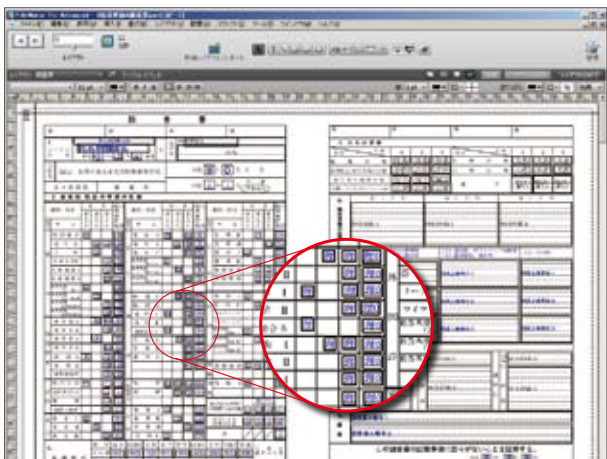
<http://www.fk.ocha.ac.jp/>

お茶の水女子大学附属高等学校では、3学年各3クラスの担任が、生徒の調査書、指導要録の管理にFileMaker Proを活用している。同校でFileMakerを全学年で使うようになったのは7~8年前のこと。以前からのユーザーである吉村雅利先生が同校に赴任し、手書きで文書作成をしたくなかったので「個人的に使い始めたのがきっかけ」だ。しばらくして、その便利さを見ていた先生方が「使いたい」と言い始めたという。教

員室の共用パソコンにFileMakerをインストールし、それを交代で使っていたが、時期や時間帯によっては混雑する。バージョンアップを機に9教諭分のライセンス購入に切り替えた。使っているレイアウトは紙の時代と全く同じ。それぞれの好みでフォントやスタイルなどを変更している。

直感的に使えるから特別なマニュアルは不要

「マニュアルは用意していません」と吉村先生。というのは、FileMakerは直感的に使えるからだ。吉村先生がFileMakerの便利さを実感するのも「グラフィックスソフトのように自在にレイアウトが変更できる点と、入力データを修正



縦に並ぶ成績の数字は、「その方が見間違えが少ないため」横位置をそろえないようにしている。もちろん、そろえたい先生もいて、その要求にも対応済み



▲お茶の水女子大学附属高等学校
美術教諭 吉村 雅利 先生

する際にリンクしているすべてが双方向に修正できる点である。表計算ソフトでは、レイアウトの自由が利かず、目の前の数値を修正したくても、それはどこかの数式を参照した結果で、直せないことも多い。

現在、成績そのものの入力には表計算ソフトを使い、FileMaker側でそこからインポートしている。これを成績入力の段階からFileMakerに置き換えるのが当面の目標。「全科目の成績や出欠情報のある大きな表の表示は、FileMakerの方が楽だから」だ。表計算ソフトを使っているのは、教職員に配布されたパソコンに、それがプリインストールされていたことの名残だ。

もう一つ、吉村先生が取り組みたいと思っているのは「通知表の作成にもFileMakerを使うこと」だ。現在使っている表計算ソフトでは、構成に変更が発生すると、人数分のコピー&ペーストが必要になる。でも、FileMakerなら基本となるレイアウトを直すだけでいい。だから吉村先生は「引継ぎも楽だと思います」と話す。最新版も購入済みという同校。ますますFileMakerの使用範囲は広がるだろう。

お問い合わせ

ファイルメーカー株式会社

〒102-8721 東京都千代田区二番町11-5 番町HYビル
URL <http://www.filemaker.co.jp/>

